

平成 22 年 5 月 14 日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2007～2010
 課題番号：19330036
 研究課題名（和文） 中国と周辺の多国間戦略—新たな均衡の形成—
 研究課題名（英文） Multilateral strategies among China and Neighbors
 —formation of new equilibration—
 研究代表者
 三船恵美（MIFUNE EMI）
 駒澤大学・法学部・教授
 研究者番号：40312110

研究成果の概要（和文）：

中国と、東南アジアから南アジア・中央アジア・西アジアにかけての中国の周辺地域との関係構造と戦略に関する体系的な分析を行い、3年間の研究成果として、全メンバーの執筆による、天児慧・三船恵美編著『膨張する中国の対外関係—パクス・シニカと周辺国』頸草書房、2010年、を出版する。また、国際シンポジウムの成果として、Srikanth Kondapalli and Emi Mifune (eds.), *China and its Neighbors*, New Delhi: Pentagon Press, 2010) を出版し、本研究プロジェクトの成果を国内外に広く社会に公表した。

研究成果の概要（英文）：

This project had done systematic analysis concerning the relational structures and the strategies of China and the neighbors. As outcomes of three years project, we published *Diplomacy of Rising China* (Satoshi AMAKO and Emi MIFUNE eds., Tokyo: Keishoshobo, 2010)、*China and its Neighbors* (Srikanth Kondapalli and Emi Mifune eds., New Delhi: Pentagon Press, and 2010).

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	5,132,282	1,590,000	6,722,282
2008年度	4,800,000	1,440,000	6,240,000
2009年度	5,000,000	1,500,000	6,500,000
年度			
年度			
総計	14,932,282	4,530,000	19,462,282

研究分野：国際関係

科研費の分科・細目：政治学・国際関係論

キーワード：中国、周辺、台頭、多国間、均衡、安全保障、中国外交、戦略

1. 研究開始当初の背景

中国は現在環状の多国間主義の枠組みを

形成している（馮紹雷「新世紀以来的地緣政

治変遷与中国的外交選択)。本研究の目的は、東南アジアから南アジア・中央アジア・西アジアにかけての帯状の地域を「中国の周辺」として位置づけ、中国と「周辺地域」との関係構造と戦略を体系的に分析することと、各地域戦略を比較研究することであった。「中国の周辺」というと、東アジアを中心に研究が展開されがちであるが、本研究では、周辺を東南アジア・南アジア・中央アジア・西アジアに設定して研究するところに特色がある。

胡錦濤時代、国際社会はアメリカ一極体制の限界に直面し、台頭をねらう中国と大国の再興をねらうロシアが新しい国際秩序の形成に積極的に動いている。胡時代の中国は、「平和的崛起」／「平和的発展」への道へと称し、新安全観と多国間主義を基軸に、諸地域との多領域にわたる協調外交を展開させている。この中国の動きは、わが国日本のアジア外交にも影響を及ぼしている。「台頭中国」の国際社会へのプレゼンスを考える場合に、従来の東アジア中心の「中国と周辺」ではない、東南・南・中央・西にかけての帯状のアジアを「中国の周辺」として位置づけ包括的な国際関係の視角から取り組む「中国と周辺」の研究は、極めて重要なものである。胡錦濤のブレーンとしても知られる鄭必堅・中国改革開放フォーラム理事長は「中国の平和的発展の道の本質は中華文明の復興である。平和的発展もしくは平和的崛起とは、文明大国というイメージによって世界の多くの民族の中で独自の地位を確立することであり、中国の百有余年来の強国への夢を実現することであり、中華文明の復興を実現することである」と説いている（「中国和平崛起進程中面臨着三大挑戰」）。また、中国共産党中央対外連絡部の『当代世界』で、王立勇氏は、「アメリカの覇権主義への反対闘争にお

いて、多国間主義には『真綿に針を包む』という巧妙さがある」「多国間外交を強化すれば、必ずやアメリカの一国主義に対する強力な牽制となる」（「中国外交」）と論じている。すなわち、中国の多国間協調外交ならびに新安全観は、中国のあらたな国際秩序形成への戦略的な挑戦である。新安全観は「相互信頼、互惠、平等、協力」を基調としてはいるが、高原明生教授が「江沢民が否定して見せた『古い安全保障観』が捨てられたわけではない」（「中国の新安全保障観と地域政策」）と説くように、中国は、協調的安全保障の枠組みを外交的に追求しつつも、軍事的近代化にも拍車をかけている。一方、中国の外交国家戦略は、香港回収工作、台湾統一工作に見られるように祖国統一への強固な目的意識から引き出されている。このような中国の動向と戦略をいかにとらえればいいのか、という問題関心から、本研究を計画することになった。

中国が推進する多国間協調枠組み構築を理解するために、近年における中国と周辺の関係構造と戦略の分析が必要になる。しかし、それでは、従来の「中国と周辺」の研究と何が違うのであろうか。「中国と周辺」に関する先行研究は、例えば「中国とASEAN」、「中国と中央アジア」というように、ある特定の地域に特化した「中国と周辺」の研究であった。細分化された各地域戦略から世界の大勢における中国の台頭を理解する研究成果は多くある（例えば、徐敦信主編『世界大勢与中国和平発展』など）。しかし、「中国の周辺」の地域的枠組みは近年拡大しつつある。ハードリー・アメリカ大統領補佐官（国家安全保障問題担当）が、アジアを分かれた地域としてではなく、融合化が進むアジア全体としてとらえていく必要があると論じたように、個々の周辺地域のみならず、周辺全体を理解

し、個々の地域の特徴を抽出しながらも、周辺全体に対する中国の外交戦略を理解する必要がある。また、個々の地域戦略を比較検討することで、特定の地域における周辺戦略の特殊性がみえてくることになる。

本研究計画は以上のような学術的関心から、中国と、東南アジアから南アジア・中央アジア・西アジアにかけての中国の周辺地域との関係構造と戦略に関する体系的な分析を計画した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、東アジアから南アジア・中央アジア・西アジアにかけての帯状の地域を「中国の周辺」として位置づけ、中国と「周辺地域」との関係構造と戦略を体系的に分析すること、および、各地域戦略を比較研究することである。

「台頭中国」の国際社会へのプレゼンスを考え、従来の東アジア中心の「中国と周辺」ではない、東・南・中央・西にかけての帯状のアジアを「中国の周辺」として位置づけ包括的な国際関係の視角から取り組む「中国と周辺」の研究である。

3. 研究の方法

国内外での調査・分析、海外ワークショップの開催（中国とインド）、全メンバーの研究成果の口頭報告（日本、中国、インド、台湾、韓国）、学会報告や論文などによる研究成果の公表を基軸に本研究プロジェクトを三年間行った。

海外ワークショップは、上海社会科学院亜太研究所における討論会、復旦大学の郭定平教授らとの研究懇談会、上海国際問題研究所の前所長で上海国際関係学会会長の俞新天氏らとの研究懇談会、インドの Jawaharlal Nehru University の Srikanth Kondapalli 教授らとの国際シンポジウムを行い、議論を闊

わせた。研究会メンバーである天児慧早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授（東アジア）、堀本武功尚美学園大学総合政策学部教授（南アジア）、小笠原欣幸東京外国語大学地域文化研究科准教授（台湾）、三船恵美駒澤大学教授（中央アジア）のメンバーで始まった本プロジェクトは、初年度から倉田秀也防衛大学（朝鮮半島）や野口和彦東海大学准教授（ASEAN）にも研究協力者として参加して頂き、また最終年度には共同面研究者に加わって頂き、東アジア、日中、中台、中韓朝、中印、中国・中央アジア、米中の枠組みから、研究を行った。国内での国際ワークショップでは、インドの Jawaharlal Nehru University の Centre for East Asian Studies, School of International Studies から Dr Srikanth Kondapalli や中華人民共和国の社会科学院世界経済与政治研究所の王逸舟教授らを招聘して、研究報告・討論を行った。

★ 研究組織

中国のグローバルな台頭が指摘されているながらも、その動向・戦略・影響について、中国と「各」地域・国との視点からのものが多く、その体系的な学術研究はこれまで極めて少ないと言える。また、そのような体系的な研究を個人によって行うことは、極めて難しいことである。本研究計画を実施する上で、次ページ②で記す本研究の目的を達成できるように、本計画に関連する研究について研究書・学術論文・日本の政府機関への報告などの実績のある、高い研究能力ならびに研究環境の適切性を備えた合計6名から、本研究組織を構成した。

本研究を遂行するうえで、3年間を通して、各メンバーが以下の研究テーマを分担した。

三船恵美：研究代表者。中央アジアと中国の関係構造と政策・戦略の分析。西アジアと中国の関係構造と政策・戦略の分析。米中関係の分析。

天兒慧：中国の周辺政策・戦略をめぐる中国国内の政治構図と政治過程の分析。

堀本武功：中国の対インド政策・戦略の分析南アジアと中国の関係構造。南アジアの対中国政策・戦略の分析。印米中・印中ロの戦略的三角関係の分析

小笠原欣幸：中国の国家統一戦略および周辺安全保障・外交戦略。台湾問題をめぐる中国と周辺国の分析。

倉田秀也：中国の対韓国・北朝鮮政策・戦略の分析。韓国・北朝鮮と中国の関係構造。

野口和彦：中国の対ASEAN政策・戦略の分析。ASEANと中国の関係構造。

4. 研究成果

3年間の研究成果として、全メンバーの執筆による、天兒慧・三船恵美編著『膨張する中国の対外関係—パクス・シニカと周辺国』頸草書房、2010年、を出版する。

また、国際シンポジウムの成果として、Srikanth Kondapalli and Emi Mifune (eds.), *China and its Neighbors*, New Delhi: Pentagon Press, 2010) を出版し、本研究プロジェクトの成果を広く社会に公表した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 22 件)

① 天兒慧、中国の真意 東アジア統合のドライバー 深まる相互依存と対立の構造(北東アジアの新パワーバランス)、エコノミスト、査読無、88(13)、2010、84~85。

② 倉田秀也、韓国第七代大統領選挙と北朝鮮——「ニクソン・ドクトリン」認識と多国間協議論(三)、『防衛大学校紀要(社会科学分冊)』、査読無、第100輯 2010、71-110。

③ 三船恵美、小泉政権以降における日中関係の視座—富強大国化する中国と日本、中国研究月報、査読有、2009年11月号、2009、18-35、2009)。

④ 三船恵美、中国と中東の経済関係—原油価格高騰と金融危機後の中国の対中東関係の強化—、『JIME 中東動向分析』、査読有、Vol. 8No. 5、2009、2-15。

⑤ 三船恵美、GCC との関係強化に動く中国、『JIME 中東動向分析』、査読有、Vol. 7. No. 11、2009、35-37。

⑥ 天兒慧、東アジア共同体・北東アジア経済圏をいかに構築するか、Erina report (環日本海経済研究所)、査読無、87、2009、17~20。

⑦ 天兒慧、中国 置き去りにされた政治改革 成長と引き換えの格差(ポスト冷戦の20年)、エコノミスト、査読無、87(28)、2009、84~86。

⑧ 天兒慧 [中国]建国60周年の回顧と今後の課題(学術シンポジウム 徹底検証!!! 「ポスト改革開放30年」の中国—改革開放30年の評価と今後の課題)、アジア時報、査読無、40(12)、2009、54~56。

⑨ 倉田秀也、韓国第七代大統領選挙と北朝鮮——「ニクソン・ドクトリン」認識と多国間協議論(二)、『防衛大学校紀要(社会科学分冊)』、査読無、第99輯 2009、1-43。

⑩ 小笠原 欣幸、2008年台湾総統選挙分析—政党の路線と中間派選挙民の投票行動、日本台湾学会報、査読有、第11号、2009、129-153。

⑪ 堀本武功、オバマのベトナムとなるのか—米 アフガニスタン政策、外交フォーラム、査読無、249号、2009、77-85。

⑫ 堀本武功、変化するインド外交—大国外交を進めるのか、現代インド・フォーラム、査読無、創刊号、2009、24-31。

⑬ 倉田秀也、朝鮮半島危機(講演会抄録)、『現代史研究』(東洋英和女学院大学現代史研究所)、査読無、第5号 2009年7月、95-102。

⑭ 倉田秀也、オバマ政権の対北朝鮮政策—「大国間の協調」と米朝関係の相剋、『東亜』(霞山会)、査読無、通巻509号、2009、28~37。

⑮ 天兒慧、中国の政治動向と国家戦略、海外事情、査読無、56(2)、2008、2-6。

⑯ 堀本武功、インドのアジア外交—中国と日本との関係を中心に—、海外事情、査読無、56(5)、2008、2-6。

⑰ 堀本武功、一触即発の印パ関係、査読無、外交フォーラム、21(11)、2008、56-63。

⑱ 堀本武功、対テロ主戦場、査読無、外交フォーラム、22(2)、2008、6。

⑲ 堀本武功、“印中関係の現状と展望” 国際問題 568、2008、58-66。

⑳ 倉田秀也、韓国大統領選挙「安保論争」と北朝鮮、査読無、防衛大学校紀要、98(2)、2008。

㉑ 天兒慧、“台頭する中国をどう読むか、問題と研究、36(5)、2007 115-128。

② 三船恵美、冷戦終結後の米中関係、国際政治、150。2007、150-167。

[学会発表] (計7件)

- ① 三船恵美、2001～2009年の日中関係、アジア政経学会、2009年10月11日、於・法政大学。
- ② 倉田秀也、The Six-Party Talks between Non-Proliferation Regimes and Regional Security Architecture, 日本国際政治学会、平成21年11月7日、於・神戸国際会議場。
- ③ 倉田秀也、李明博・鳩山政権と北朝鮮の核開発問題、現代韓国朝鮮学会、平成21年11月14日、於・東西大学民石図書館(韓国釜山市)。
- ④ 野口和彦、中国の戦略行動分析と国際政治理論、日本国際政治学会、2009年11月6日、於・神戸国際会議場。
- ⑤ 小笠原欣幸、立法委員選挙と総統選挙を控えた台湾の民主政治の現状と今後の展望、アジア政経学会、2007年10月14日、於・東京女子大学。
- ⑥ 小笠原欣幸、立法委員選挙と総統選挙を控えた台湾の民主政治の現状と今後の展望、アジア政経学会、2007年10月14日、於・東京女子大学。
- ⑦ 三船恵美、"中国共産党第17回党大会と中国外交" アジア政経学会、2007年10月13日、於・東京女子大学。

[図書] (計15件)

三年間の集大成として全6名で執筆。

① 天児慧・三船恵美編著『膨張する中国の対外関係—パクス・シニカと周辺国』頸草書房、2010年夏刊行予定。

科研プロジェクトの国際シンポジウムの成果として

② Srikanth Kondapalli and Emi Mifune (eds.), *China and its Neighbors*, New Delhi: Pentagon Press, 2010.

三船恵美、"China's policy toward Central Asia," Srikanth Kondapalli and Emi Mifune (eds.), *China and its Neighbors*, New Delhi: Pentagon Press, pp.220-242.

天児慧 "China's Foreign Strategy as a Great Power," Srikanth Kondapalli and Emi Mifune (eds.), *China and its Neighbors*, New Delhi: Pentagon Press, pp.1~15

堀本武功 Pentagon Press, "India-China Relations: Bonhomie with Ambivalence" in S. Kondapalli & M. Mifune ed., *China and its Neighbours*, Pentagon Press, 2010,

161-179.

小笠原 欣幸、"China-Taiwan Relations: Taiwanese Identity and 'One China Principle'," in Srikanth Kondapalli and Emi Mifune eds., *China and its Neighbours*, 48-85.

③ 小笠原 欣幸 「陳水扁の政権運営」若林正文編『ポスト民主化期の台湾政治—陳水扁政権の8年』2010年、27-61。

④ 三船恵美 「ヨーロッパとの関係」中国研究所編『中国年鑑』毎日新聞社、2009、124-126。

⑤ 倉田秀也、『現代東アジア——朝鮮半島・中国・台湾・モンゴル』、慶應義塾大学出版会、2009、54~123。

⑥ 三船恵美、「米台中関係の歴史と現状」天児慧・浅野亮編、中国・台湾、ミネルヴァ書房、2008、161-185。

⑦ 三船恵美、アジアの安全保障 2008-2009、朝雲新聞社、2008、156-158。

⑧ 三船恵美、「中国の対中央アジア戦略」加々美光行編『中国内外政治と相互依存—中国政治研究の新機軸』日本評論社、2008年、359-377。

⑨ 三船恵美、「対中東関係」霞山会監修・中国総覧編集委員会編集『中国総覧 2007~2008年版』2008、225-246。

⑩ 三船恵美、「香港特別行政区」『アジア動向年報 2008』アジア経済研究所、2008、158-174。

⑪ 天児慧「現代中国を視る眼」天児慧・浅野亮編、中国・台湾、ミネルヴァ書房、2008、1-26。

⑫ 小笠原欣幸「民主化、台湾化する政治体制」天児慧・浅野亮編、中国・台湾、ミネルヴァ書房、2008、135-160。

⑬ 倉田秀也「核不拡散義務遵守と多国間協議の力学」武田康博・丸川知雄・巖善平編『現代アジア研究 3』慶應義塾大学出版会、2008、71-99。

⑭ 堀本武功、『インド:グローバル化する巨象』、岩波書店、2007年。

⑮ 三船恵美、平和・安全保障研究所編『アジアの安全保障 2007-2008』朝雲新聞社、2007、156-158。

[その他]

ホームページ等

小笠原欣幸: 小笠原ホームページ
<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/ogasawara/>

野口和彦: 個人ウェブ・ページ
<http://pubweb.cc.u-tokai.ac.jp/kazz/>

三船恵美：時事通信社 JANET

〈<http://janet.jw.jiji.com>〉で以下などを掲載した。

「新段階に入った中国の対中央アジア政策（特集：ユーラシア攻防：グレートゲーム）」

時事通信 JANET、2010年02月10日

〈<http://janet.jw.jiji.com>〉 2010.02

「オバマ米大統領の訪中と米中関係（特集：アジア歴訪オバマの足跡）」時事通信 JANET、2009年11月25日

「09年新疆暴動」と中国の統治能力」時事通信 JANET、2009年08月12日「中国の『真珠の数珠』戦略」時事通信 JANET、2009年07月15日

「オバマ政権下の米中関係」時事通信 JANET、2009年05月13日

「特集アジア歴訪：アジア歴訪の中心は中国」時事通信 JANET、2009年03月04日

6. 研究組織

(1) 研究代表者

三船 恵美 (MIFUNE EMI)
駒澤大学・法学部・教授
研究者番号：40312110

(2) 研究分担者

天児 慧 (AMAKO SATOSHI)
早稲田大学・大学院アジア太平洋研究科・教授

研究者番号：70150555

堀本 武功 (HORIMOTO TAKENORI)
尚美学園大学・総合政策学部・教授

研究者番号：40364872

小笠原 欣幸 (OGASAWARA YOSHIYUKI)
東京外国語大学・准教授

研究者番号：20233398

倉田 秀也 (KURATA HIDEYA)
防衛大学校・人文社会学群国際関係学科・教授

研究者番号：20233398

野口 和彦 (NOGUCHI KAZUHIKO)
東海大学・教養学部国際学科・准教授
研究者番号：60338754